

お茶の水女子大学での最初の学期

パリ・シテ大学

ローラ・マエバ・スシン

お茶の水女子大学での最初の学期が終わりに近づき、これまでの経験を振り返りたいと思います。

今学期は、さまざまな多くのことを同時にこなさないとはいけなく、私にとって簡単な学期ではありませんでした。特に、専門科目において日本語で書籍の章のレジュームを書く課題に初めて取り組み、大きな挑戦となりました。最初は難しく感じていたものの、この経験を通して日本語での表現力を高め、今では以前ほど難しく感じなくなりました。自分の成長を実感できたことは、大きな成果であったと感じています。

また、毎週開催されている「フランス語カフェ」という活動にも参加し、フランス語やフランス文化に関心を持つ日本人の学生と会う機会に恵まれました。非常に幅広いテーマについてのディスカッションを進行する機会を得るとともに、フランスについて多くのことを伝えることができました。毎週参加してくれていた学生たちがこの活動に対して非常に積極的であったことに感動し、同時に皆さんと楽しく充実した時間を過ごすことができました。来学期もぜひこの活動を継続していきたいと思います。

また、時には自由時間中に出かけて、これまで行ったことのなかった日本の様々な場所へ訪れたりなど、リラックスする時間も大切にしました。

全体的に、今学期お世話になったすべての先生方に心より感謝を申し上げます。どの授業も非常に興味深く、また先生方にとってはとても親切に接してくださいました。中でも、指導教員である申琪榮先生には、研究において今後役立つ多くのことを学ばせていただきました。難しい課題に直面した際にも深い理解を示してくださり、常に最善を尽くすよう励ましてくださいました。お茶の水女子大学でのチューターである大室恵美さんにも感謝申し上げます。毎月定期的に面談の機会を設けてくださり、常に熱意をもってサポートしてくださいました。さらに、今学期のフランス語カフェに参加してくださったすべての方々に感謝したいと思います。最後に、この学期を通して支えてくれた友人やクラスメートたちにも、心から感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

来学期は、研究を着実に進めながら引き続き努力を重ねるとともに、日本で過ごす残りの時間を大切に、充実した日々を送りたいと考えています。

